

史料紹介

古宇田 亮 修

当研究所では、平成十七年度（二〇〇五）より社会福祉法人錦華学院に所蔵される東京感化院時代の史料の翻刻公開を開始した。本号はその九冊目に当たると。過去八冊においては、第七号を除き日誌史料を中心として翻刻を掲載してきた。本号もまた、明治三十九年から明治四一年にわたる時期の日誌類四冊の翻刻を掲載するものである。

史料の翻刻作業については、従前どおり北都古文書研究会（会長齋藤博氏）に全面的な御協力を仰いだ。ここに銘記し、会員諸氏の継続的な御尽力に対し厚く御礼申し上げる。また本号の編集・版下作成は、筆者の担当になるものである。なお校正に際しては、菅田理一（淑徳大学）ならびに三浦周（大正大学総合佛教学研究）の両氏に御協力頂いた。ここに記して謝意を表したい。

〈史料54〉日記 教務課（明治三十九年度）

当史料は、一二行書きの野紙で全三四丁から成る和綴じ本である。記載期間は、明治三十九年元日から同年五月末日までである。記載者は、その筆跡から高瀬紹卿と考えられる。内容としては、表題にもあるように教務課の

日誌であり、〈史料51〉『日誌 教務課（明治三十七〜三十八年）』（『東京感化院関係史料集（8）』所収）の後継に当るものである。

〈史料55〉日誌 庶務課（明治三十九年度）

当史料は、一二行書きの野紙で全一三六丁から成る和綴じ本である。表紙ならびに本文の最初と最終丁に虫喰い跡がみられる。記載期間は、明治三十九年元日から明治四〇年七月末日までである。記載者は、その筆跡から清水橋村（孝教）と考えられる。内容としては、表題にもあるように庶務課の日誌であり、〈史料23〉『日誌 庶務課（明治三十七〜三十八年）』（『東京感化院関係史料集（5）』所収）の後継に当るものである。

〈史料56〉日誌 家族寮（貳号 明治三十九年十一月起）

当史料は、一二行書きの野紙で全四八丁から成る和綴じ本であり、四七丁目まで記載がある。記載期間は、明治三十九年一月一日から明治四〇年一月八日までである。本文は草書体で記されており、記載者は一名と推測されるが、現在のところ特定できていない。内容としては、〈史料52〉『日誌 家族』（明治三十八年一月起 第壹号）ならびに〈史料53〉『日誌 家族』（明治三十八年十月起 第貳号）（『東京感化院関係史料集（8）』所収）と同系である。

〈史料57〉教務日誌 教務課（明治四十年四月〜明治四十一年十二月）

当史料は、一二行書きの野紙で全一八五丁から成る和綴じ本であり、一八四丁目まで記載がある。記載期間は、

明治四〇年四月一日から明治四一年一二月末日までである。本文は楷書体で記されており、記載者は〈史料56〉の記載者とは別の一名であるが、現在のところ特定できていない。内容としては〈史料54〉と同系であるが、それに比較し一日当りの記載量は充実している。

（当研究所主任研究員）